

学校・園にはいろいろな「交流」があります



上の二つの写真は、12日（木）の小学校の「たてわり班の顔合わせ」の様子と、13日（金）の1・2年生の遠足（平和島公園）での一コマです。

たてわり班は、1・6年生、2・4年生、3・5年生が、それぞれグループを組み、毎日の清掃や、休み時間のたてわり班遊びを一緒にする取り組みです。写真は、このたてわり班の、今年度の最初の顔合わせの様子です。

右の写真は、遠足に行った1・2年生が、同じグループを組み、一緒にアスレチックに挑戦している様子です。

校（園）内には、他にもいろいろな交流があります。園では、4歳児・5歳児それぞれで、日常の保育を幼稚園と保育園で連携して行う「のびっ交流（のびっこうりゅう）」などもありますし、幼・保・小の連携として、5年生と5歳児の5・5交流、4年生と4歳児の4・4交流もあります。5・5交流では、先日、地域に出向き、プランターに花を一緒に植える活動を行ってきました。小学校では、5月に実施しましたが、3・4年生の遠足も、1・2年生と同様に、グループを組んで一緒に野毛山動物園内を回ってきました。

また、4年生以上の児童が参加しているクラブ活動や、委員会活動（4年生は一部児童）なども、ある意味、異学年交流ということができると思います。

先日の5・6年生対象の朝会で、私から、たてわり班活動に期待することとして、この活動を「学校を明るく楽しい場にするための、一つのきっかけにしてほしい」「そのために高学年には、特にリーダーとして張り切ってほしい」という趣旨の話をしました。高学年のみなさんは、これまでもいろいろな場で、様々な交流体験を重ねてきていますので、きっと、その場にふさわしいリーダーシップを発揮してくれるだろうと期待をしています。

いろいろな年齢の幼児・児童が関わりをもつことができる、これが台場の強みです。幼・保・小の施設一体型だからこそ、様々な交流を生み出しやすい環境にあります。実施にあたっては、それぞれの取り組みのよさや意味を十分引き出せるよう、大人の側の工夫や配慮が大切だと考えています。